

### III 介護の状況

#### 1 要介護者等のいる世帯の状況

介護保険法の要支援又は要介護と認定された者（以下「要介護者等」という。）のいる世帯を世帯構造別にみると、「三世帯世帯」が32.5%、次いで「核家族世帯」29.3%となっている。

世帯構造別に要介護度の状況をみると、「単独世帯」では「要介護1」の者のいる世帯が40.9%と最も多く、次いで「要支援者のいる世帯」が27.7%となっている。

一方、「三世帯世帯」でも、「要介護1」の者のいる世帯が最も多いが、「要介護5」のいる世帯も16.4%と多くなっている。（表10）

表10 要介護者等のいる世帯の世帯構造別にみた要介護度の状況

(単位：%) 平成13年

要介護度	総数	単独世帯	核家族世帯	三世帯世帯			
				(再掲) 夫婦のみの 世帯	三世帯世帯	その他の世帯	(再掲) 高齢者世帯
総数	[100.0] 100.0	[15.7] 100.0	[29.3] 100.0	[18.3] 100.0	[32.5] 100.0	[22.4] 100.0	[35.3] 100.0
要支援者のいる世帯	12.5	27.7	9.5	9.3	10.1	9.2	16.8
要介護者のいる世帯	84.1	67.3	85.3	86.0	87.7	89.1	79.5
要介護1	26.2	40.9	21.6	22.0	23.2	26.3	31.1
要介護2	21.0	15.7	22.3	24.9	19.6	25.0	21.5
要介護3	13.3	4.7	16.0	15.9	13.9	14.6	10.8
要介護4	12.1	2.1	14.7	14.0	14.5	12.0	9.1
要介護5	11.6	4.0	10.7	9.2	16.4	11.3	7.0

注：1) 「総数」には要介護度不詳を含む。

2) 世帯に複数の介護を要する者がいる場合は、要介護の程度が高い者のいる世帯に計上した。

#### 2 要介護者等の状況

要介護者等を年齢階級別にみると、「75～79歳」「80～84歳」「85～89歳」がそれぞれ20%程度と多くなっている。

性別にみると、男32.9%、女67.1%と女が多くなっている。（表11）

表11 性・年齢階級別にみた要介護者等の状況

(単位：%) 平成13年

性	総数	年齢階級別								
		40～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	(再掲) 65歳以上	
総数	[100.0] 100.0	5.3	7.3	10.4	19.2	22.0	21.0	14.9	94.7	
男	[32.9] 100.0	8.5	11.4	14.3	19.4	20.5	15.6	10.3	91.5	
女	[67.1] 100.0	3.7	5.2	8.5	19.1	22.7	23.7	17.1	96.3	

要介護者等の要介護度の状況をみると、最も多いのは男女ともに「要介護1」となっている。  
(表12)

表12 性・要介護度別にみた要介護者等の状況

(単位：%) 平成13年

性	総数	要支援者	要介護者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
				総数	100.0	13.5	83.2	27.2
男	100.0	11.0	84.6	23.6	23.0	14.2	13.6	10.2
女	100.0	14.7	82.5	28.9	19.4	12.3	10.5	11.4

注：「総数」には、要介護度不詳を含む。

要介護者等の介護が必要となった主な原因をみると、「脳血管疾患」が27.7%と最も多くなっている。  
性別にみると、男は「脳血管疾患」が42.9%と特に多く、女でも「脳血管疾患」が最も多いが、「高齢による衰弱」「骨折・転倒」も多くなっている。(表13)

表13 性別にみた介護が必要となった主な原因

(単位：%) 平成13年

性	総数	脳血管疾患 (脳卒中など)	心臓病	がん (悪性新生物)	呼吸器疾患 (肺炎等)	関節疾患 (リウマチ等)	痴呆	糖尿病	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊髄損傷	高齢による衰弱	パーキンソン病	その他	不明
総数	100.0	27.7	3.1	1.1	2.0	10.4	10.7	2.2	1.6	11.8	2.8	16.1	6.6	1.2	1.5
男	100.0	42.9	3.1	1.1	3.3	5.5	6.2	2.2	2.1	5.7	4.4	11.5	7.2	1.0	2.1
女	100.0	20.2	3.1	1.1	1.3	12.8	13.0	2.3	1.4	14.8	2.0	18.3	6.4	1.3	1.2

注：「総数」には、介護が必要となった原因不詳を含む。

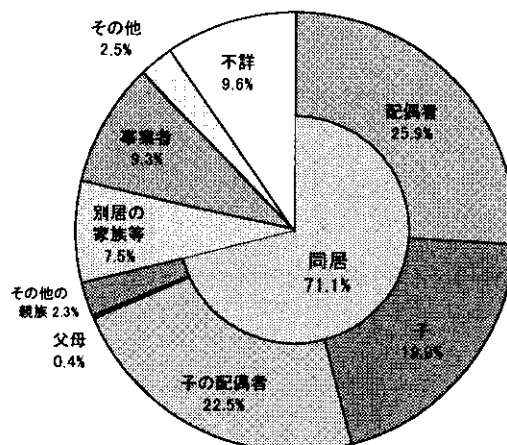
### 3 主な介護者の状況

主な介護者の要介護者等との続柄をみると、要介護者等と同居している家族等介護者が71.1%、別居している家族等介護者が7.5%、事業者は9.3%となっている。

同居している主な介護者の続柄をみると、「配偶者」25.9%、「子」19.9%、「子の配偶者」22.5%となっている。(図16)

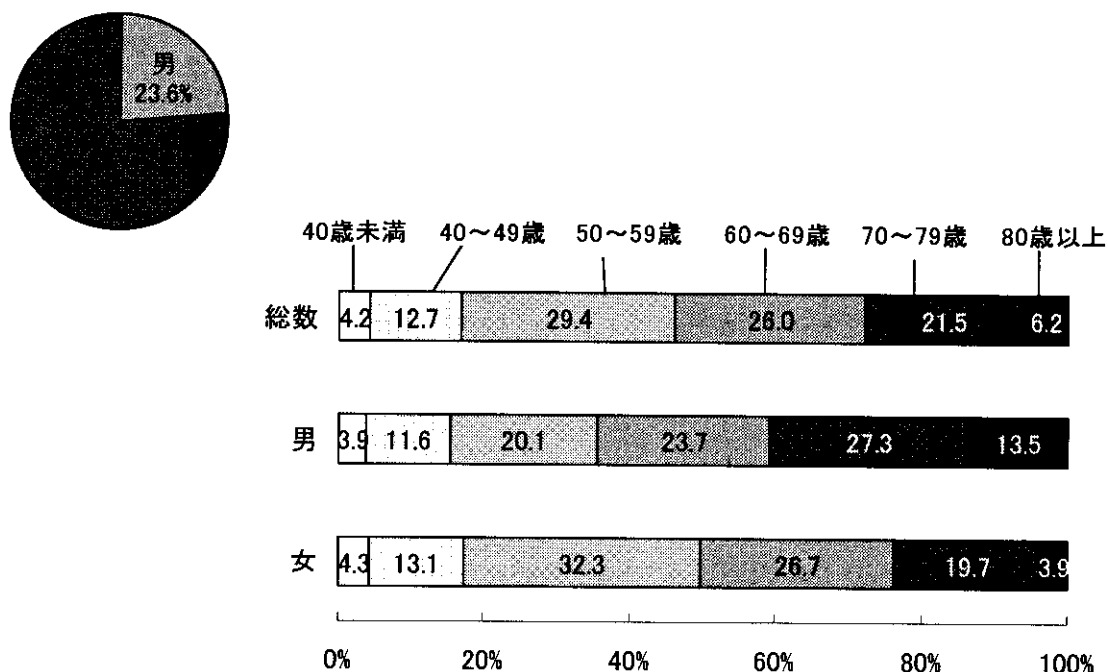
以下は、この要介護者等と同居している主な介護者について観察したものである。

図16 主な介護者の要介護者等との続柄及び同別居の状況 平成13年



要介護者等と同居している主な介護者を性別にみると、男23.6%、女76.4%と女が多い。年齢階級別にみると、50歳代、60歳代、70歳代の順に多い。(図17)

図17 性・年齢階級別にみた同居している主な介護者の状況 平成13年



要介護者等と同居している主な介護者と要介護者等の組合せを年齢階級別にみると、「70~79歳」の要介護者等では、「70~79歳」の者が介護している割合が多く、「80~89歳」の要介護者等では、「50~59歳」の者が介護している割合が多くなっている。(表14)

表14 性・年齢階級別にみた同居している主な介護者と要介護者等の状況

(単位: %) 平成13年

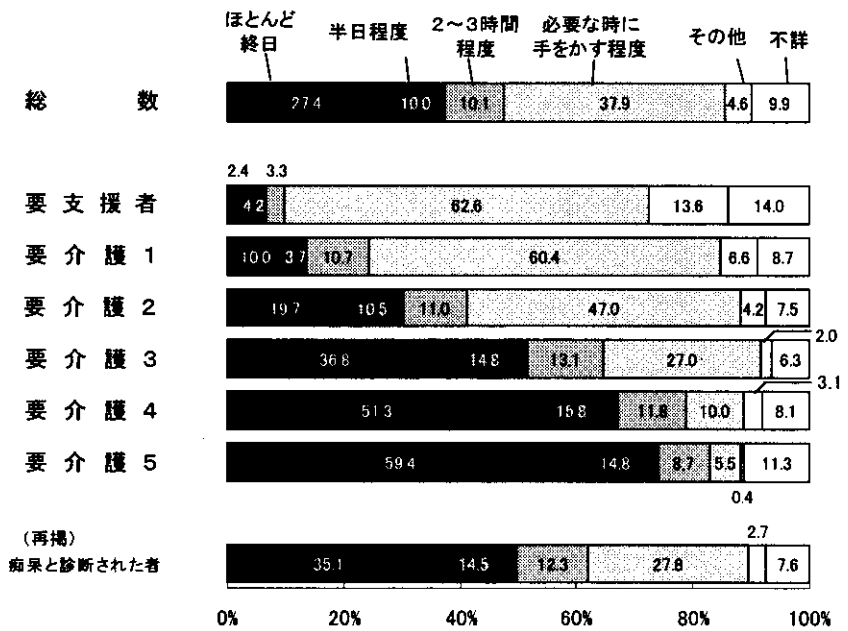
同居している主な 介護者の性・年齢階級	要介護者等						
	総数	40~64歳	65~69歳	70~79歳	80~89歳	90歳以上	(再掲) 65歳以上
総数	[100.0]	[5.8]	[7.2]	[28.8]	[41.9]	[16.4]	[94.2]
40歳未満	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
40~49歳	4.2	12.3	12.7	4.0	1.8	4.4	3.8
50~59歳	12.7	9.7	7.8	19.3	13.4	2.6	12.9
60~69歳	29.4	33.1	8.8	18.1	42.6	23.4	29.2
70~79歳	26.0	33.1	53.7	13.0	18.9	52.5	25.6
80歳以上	21.5	9.5	17.0	39.8	14.0	14.4	22.2
80歳以上	6.2	2.4	-	5.9	9.2	2.7	6.4
男	23.6	35.5	28.6	29.6	20.0	16.1	22.9
40歳未満	0.9	3.2	2.7	0.8	0.3	1.1	0.8
40~49歳	2.7	5.3	2.6	4.1	2.4	0.3	2.6
50~59歳	4.7	6.1	0.5	3.5	6.4	4.0	4.7
60~69歳	5.6	17.4	11.2	1.1	5.2	7.9	4.9
70~79歳	6.4	3.5	11.8	14.5	1.8	2.8	6.6
80歳以上	3.2	-	-	5.5	3.8	-	3.4
女	76.4	64.5	71.4	70.4	80.0	83.9	77.1
40歳未満	3.3	9.1	10.0	3.2	1.5	3.3	3.0
40~49歳	10.0	4.4	5.2	15.2	11.0	2.4	10.3
50~59歳	24.7	27.0	8.4	14.5	36.1	19.4	24.5
60~69歳	20.4	15.7	42.6	11.8	13.7	44.5	20.7
70~79歳	15.0	5.9	5.2	25.3	12.3	11.6	15.6
80歳以上	3.0	2.4	-	0.4	5.4	2.7	3.0

図18 要介護者等の要介護度別にみた同居している主な介護者の介護時間  
平成13年

要介護者等と同居している主な介護者の介護時間をみると、「必要なときに手をかす程度」が37.9%と最も多く、次いで「ほとんど終日」となっている。

要介護者等の要介護度別にみると、要支援者、要介護1、要介護2では「必要なときに手をかす程度」が最も多くなっている。

一方、要介護3以上では「ほとんど終日」が最も多くなっている。(図18)



注: 1)「総数」には要介護度不詳を含む。  
2)痴呆と診断された者の要介護者等に占める割合は22.4%である。

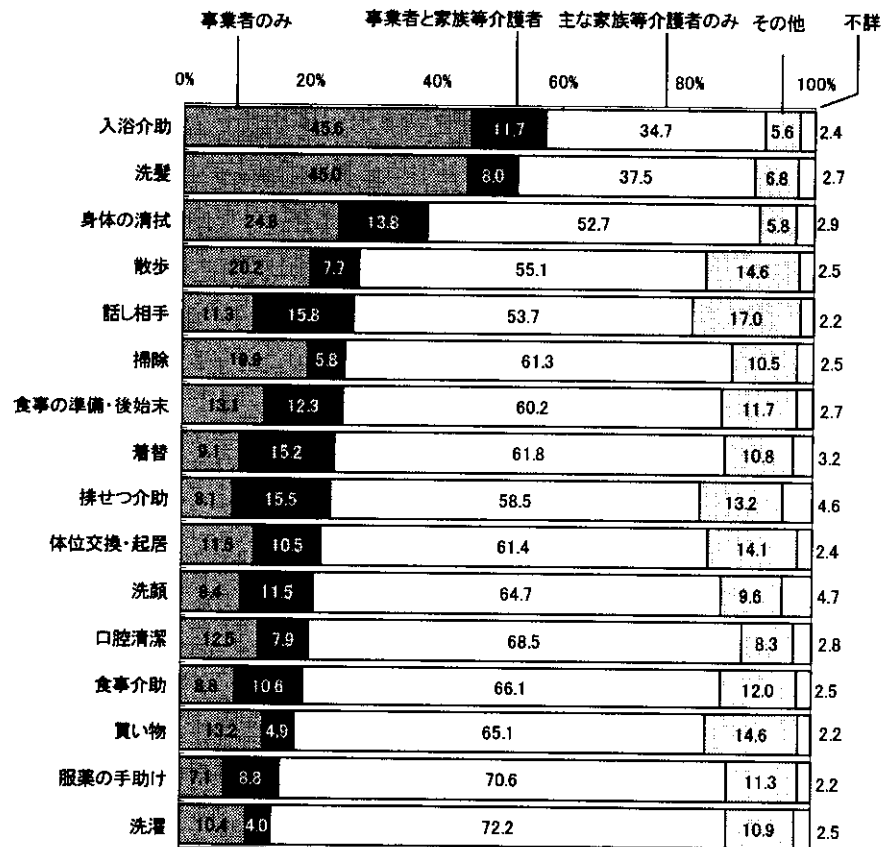
#### 4 介護者の組合せの状況

要介護者等が家族・親族等や訪問介護事業者から受けている16項目の介護内容について、介護者の組合せの状況を見ると、「事業者のみ」の割合が最も多いのは「入浴介助」の45.6%であり、次いで、「洗髪」45.0%、「身体の清拭」24.8%となっている。

一方、「主な家族等介護者のみ」による介護の割合は、「入浴介助」と「洗髪」を除いて他のすべての項目で最も多くなっている。

また、「事業者と家族等(家族・親族)介護者」による介護は、「話し相手」「排せつ介助」「着替」が15%を超えている。(図19)

図19 介護内容別にみた介護者の組合せの状況  
平成13年



注:「その他」とは、「主な家族等介護者」と「その他の家族等介護者」をいう。

## 5 居宅サービスの利用状況

要介護者等の5月中の居宅サービスの利用状況をみると、居宅サービスを1種類でも利用した者は75.6%で、世帯構造別にみると、単独世帯では86.8%が利用しているが、核家族世帯では69.2%、三世代世帯では75.2%となっている。

居宅サービスの種類別にみると、単独世帯では、「訪問サービス」が71.0%と特に多く、「配食サービス」も16.4%と他の世帯構造に比べて多くなっている。また、三世代世帯では、「通所サービス」が55.4%と多くなっている。(表15)

表15 世帯構造別にみた居宅サービスの利用状況(重複計上)

(単位：%)

平成13年

利用の有無 居宅サービスの種類	総数	単独世帯	核家族世帯	平成13年			
				(再掲) 夫婦のみの 世帯	三世代世帯	その他の世帯	(再掲) 高齢者世帯
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
利用した	75.6	86.8	69.2	70.6	75.2	77.4	78.2
訪問サービス	41.8	71.0	45.0	45.5	30.3	34.5	54.7
通所サービス	44.0	30.4	34.2	32.6	55.4	50.1	33.0
短期入所サービス	12.1	4.3	7.5	8.3	15.5	18.7	8.9
配食サービス	5.2	16.4	6.4	7.5	0.9	2.3	10.8
外出支援サービス	3.1	5.9	4.4	4.9	1.9	1.2	4.6
利用しなかった	24.4	13.2	30.8	29.4	24.8	22.6	21.8

- 注：1) 「訪問サービス」には訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、「通所サービス」には通所介護、通所リハビリテーション、「短期入所サービス」には短期入所生活介護、短期入所療養介護を含む。  
2) 居宅サービスの種類の「利用した」の総数には、上記サービスの他、痴呆対応型共同生活介護、寝具類等洗濯乾燥消毒サービス、情報提供・相談サービス、保健事業による機能訓練、保健事業による訪問指導を含む。